

「安全・安心に日本が生きるための国づくり」

畑村 洋太郎



こんにちは。今から「安全・安心に日本が生きるための国づくり」という事で話をします。僕はこの題目で話をするのは、今まで全くやったことがなく生まれて初めてです。今からみなさんにたくさん写真をお見せしますが、僕自身は国の安全や、国土の安全という事を子どもの頃からとても気になっているものですから、いろいろなものを見たり、いろいろな事を考えたりしてきました。ただ、機械の専門というところから外れたところですので、一度もよその人に向かって、こういう話をするチャンスがありませんでした。それで、今回、どういう訳かこういう話をしてくれと言われたものですから、喜んで引き受けました。話の中身は、自分で出かけて行って、本当に何を思ってこの国土をどのようにしていけばいいのかを自分で考えた事をみなさんにお話ししようと思っています。

今から話をしようと思っていますのが、自然災害、それから緊急の時で、僕は国防などをちゃんと考えないといけないというふうに思っています。

あとは、作業や都市計画を考えたインフラの整備、資源エネルギー、技術と公害、新工法の開発、事故に学ぶ、それから国土計画への立案や実行で注意すること、こんなことをいろいろに考えてきました。みなさんどうぞお付き合いください。

1.3現(現地・現物・現人)の必要性

僕はこういうものを考える時に、いつも3現主義というのをやっています。現地、現物、現人で、必ず現場に行ってものを考える。それから、それに携わっている人、関係した人と話をするという

ことを必ずやるようにしています。二次情報で自分の考えをつくっていくと必ず間違いになるので、そういうことがないようにと思ってやっています。

僕の年は65才です。1941年生まれです。大学院を卒業した時が25才です。それで、27才で東京大学の先生になってくれと頼まれて、東大の先生になったのですが、その時以来、自分なりにあちこちに出かけて行き、いろいろな工事などを見ています。それを今回の講演を頼まれてから、40年分を全部めぐりなおしてみました。それで作ってきた地図がこれです。北海道から山陰地方まで、いろいろな所に出かけて行き、その場所を見ながら自分で考えています。

2.自然災害

まず、自然災害について考えるのだと、風、水、土砂、異常気象について考えています。その中で、僕自身が思っているのは、1949年の南海地震、戦争の直後くらいまでは、みんなの生活が混乱しているの、きちんとした報道がされていないために、ものすごく大きな災害があったのに、みんなの記憶に残っていないという事です。この辺を最後にして約50年間、日本列島というのはものすごく静かな時期がやってきました。静謐な時期です。これは誰も今は言っていないことですが、阪神の震災のあたりから、日本は言ってみれば、動乱期に入ったのではないかと感じています。特に日本海側の気象とそれから地震とか、地震はそれほど大きなことは起こっていませんが、本来起こっている、ものすごく異常な気象などが、日本海側で次々起こるのではないかと僕は思っています。

もう一つ、太平洋側では、東海地震だけは騒がれていますが、南海地震、それから西南海地震、これは確実に起こると思っています。みんな、それを言っても真に受けないので、後で提案する絵を一つ出します。

自然災害で見て、自分で出かけていった事例です。羽越線の脱線事故や、土砂の災害をどう防いでいるかというので、立山の砂防ダムはもう何回も見に行っています。ずいぶん前ですが、多摩川で駒谷の堤防が決壊するような所は脇へ行って、